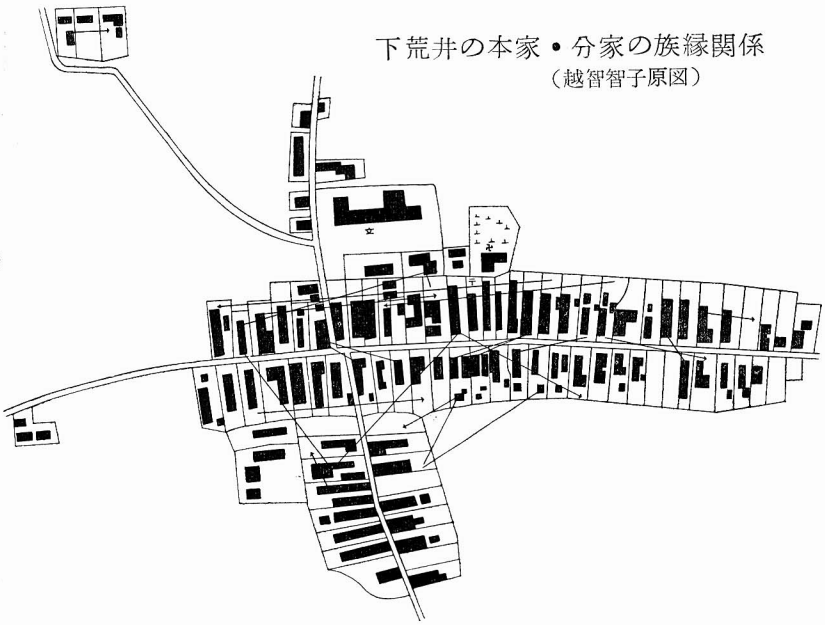


下荒井の本家・分家の族縁関係  
(越智智子原図)



関係などは、殆どみられなくなった間柄でも、集団生活意識が強いようにみられる。これは、会津地方は勿論、東北地方などに特に強く残っている現象である。関西地方などの、特に都市近郊の村々などでは、一つの土地に住むから、或る程度の社会生活の必要性は認めるが、血のつながりも殆ど察知できなくなった本家と分家の間柄などは、その名称さえ忘れ去ろうとしているほどである。

北会津村の各部落をみると、やはり本家と分家のつながりが、相当古くなくても、容易には崩すまいとする古老が、まだ多いようにみえる。その主因は勿論、わかされ、これは血のわかされもあるが、土地のわかされ、特に屋敷を分けた場合、祖先より伝えてきた耕地を分けた場合に強い。分家は本家よりの独立であり、創立であり、名字を同じくする場合も多いから、つながりを、伝統に求める場合が多いし、またそれを固持しようとする傾向も強い。

このほか、現在の北会津村にはあまり目立たない